

憑依合体短編集

憑依合体

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

これは自分が思いついた転生憑依物です

思いついたらなのでいつ書くかもわかりません

思いつきで書いてるのでおかしいところがあつても気にしないでください。

目

次

転生者 in サカキ (ポケモン)
in ギン (ONE PIECE)

3 1

転生者 i n サカキ (ポケモン)

事故によつてなくなつた俺は気がついたらポケモンの世界に転生していた。

しかもサカキという名前だつたのだ。

初めは混乱し、泣きわぬき親に迷惑をかけてしまつた。お恥ずかしい。

まあ、名前が同じだけかもしれんない、

なんて思いながら10歳になつて旅に出たらトキワシティにジムないし、口ケツト団もなかつた。

ここはゲーム基準なのか、アニメ基準のかだよな。

俺がサカキなのか・・・まだないだけなのか？

口ケツト団ないとなにか不都合あつたか？

ない、よな

まあ昔ゲームで遊んだのとアニメをホウエン地方辺りまでしかわからないし、そこまで知識ないからわからないが
旅をしてまあこれからを考えよう

旅を続けた結果、俺は人の愚かな所を何度も見ることになつた。
ポケモンの経験値のために野生のポケモンとバトルし倒したポケモンをゲットすることもなく放置しているトレーナー、ポケモンバトルで自分のポケモンが負けたらポケモンに罵声を吐き、ポケモンを捨てていたり、ポケモンを売るために密漁をするものなどがいたのだ。
多くのポケモンが傷ついていたのだ。

なぜここまで、できるのだ。

俺も初めは、ゲームのように何となくでしか見てなかつた。だけどポケモンを触れてみたら分かる、ポケモンたちはちゃんと生きている！

ポケモン達に触れれば暖かく、人と同じように生きた命だろう!!
なのに、なんなんだあれは!!!

カントー地方以外にも行つてみたが、変わらないどこでも同じような人間がいた。

旅に出てから10年、俺はトキワシティのジムリーダーをやつている。

トレーナー達に問い合わせポケモンとどう接しているかなどをみると、ひどいトレーナーなら心を折るつもりで相手をし、いい関係を作っているトレーナーには普通のジム戦を、改善の余地が有るようなら諭していた。

いつしかカントーの登竜門とされていた

まあ、それはいい

もうひとつが大事だ。俺はロケット団を設立したのだ。
犯罪組織ではないけどな。

それは、ポケモン保護団体、通称 ロケット団。どんな地方でも飛んでいって保護する。

それが我らロケット団だ!!

俺と同じように思つていてる人は多くいたんだ。

それで、話をしていたらトントン拍子で気がついたら設立していった。

トキワシティにあり、ジムから少し離れていたりする。まあバトルを怖がるポケモンもいるからな。

それと、保護したポケモンはジム戦にきたトレーナーにポケモンを会わせていいと思えたトレーナーをロケット団に連れてていき、ポケモンと仲良くなれたら連れていくつてもらつてている。

野生に戻せるポケモンは戻すのだが、トレーナーの匂いのついたポケモンを群れなどでは追い出すことなどがあり野生に戻せないこともあるのだ。

おや、ジム戦をしにトレーナーが来たようだ

「君はポケモンが好きかい？」

i n ギン（O N E P I E C E）

俺は一度死んだことがある。別に俺はヨミヨミの能力者という訳ではない。

一度死んで、この世界に生まれたのだ。

東の海の小さな村で生まれた俺の名前はギン。

事故で死んでしまったあと、どこかふわふわとしていた気がするが気づいたら赤ん坊だつたのだ。

ここがO N E P I E C Eの世界だとは言葉をちゃんと理解できた

2歳ぐらいになつてわかつた。

ギンという名前であつたが、正直同姓同名だと思つていた。

でも、名前が同じだから木でトンファーを作つて練習したんだ。

8歳の時森で練習していたら村に海賊が来て村の人間全員殺された。見聞色の霸気が僅かながら使えたがそれだけの俺は隠れてやり過ごすしかなかつた。

その後海軍が来たがその時も隠れていた。

ワンピースの海軍はあまり好きではなかつたからだ。

海軍も去り俺はこの島で15歳まですごした。

前世で見て いた漫画やアニメのキャラの動きを思いだし、霸気の練習もした。特に雲雀恭弥がすきだつた。

霸気はそれなりに使える自信があつた。

それにトンファーの扱いに関しても自信がある。剃も使えるようになつた。後は人間相手の実戦だ。

15歳になり海賊が食料調達に來た。その海賊を襲い船を奪つた。小さい船で助かつた。（メリーアー号より小さい）

まだ海賊になつたばかりのようだつた。

食料を積み込み俺は海に出た。

あれからいろいろありグランドラインで賞金稼ぎをしながら海を冒險している。

俺にも仲間ができた。

一人目は武装色の使える針ネズミ、動物が霸気は使える無人島で仲

良くなつたのだ。

もう一人はカラスだ。見聞色がつかえる。こちらも無人島で仲良くなつた。

人の仲間じやないがな・・・
友人がいな訳ではない、ただ一緒に冒険するかというと違うのだ。

武器も増えた海楼石のついたトンファーにガンズトンファー、海楼石の手錠に普通の手錠だ！

海楼石のトンファーは霸氣を使わなくとも能力者に勝てるようになつて楽だ。

あと、空を飛ぶやつが前にいたんだが面倒なやつで銃があればもう少し楽だつたんじやないかと思つてからガンズトンファーというものを思いだし武器やに作らせた。

手錠は多対一の時とか海軍に連れてく時ようだ。

雲雀のような仕込みトンファーは俺には扱いにくかつた。
新世界に行つたこともあるが、航海が面倒すぎて何個か島に行つてやめてしまつた。

あと、たまに東の海の海上レストランに行つてている。俺はあそこの料理のファンなのだ。

そのとき、クリークのことを聞いたがギンについてはでなかつた。
まだ有名じやないのかもしけない。

だが、おそらく俺は本当に原作キヤラのギンになつてしまつたようだ。

そろそろ原作も始まる時期だと思われる。

サンジがどうなるのか気になるし久しぶりに海上レストランに行つてみるか。

「ん？ 海賊が群れて何のようだ。殺すよ」